

自叙伝執筆を勧める

わが家でおかずを多めに作ったときのこと。タイミングよく来店されたら、「できたてのおかず、少し差し上げますから」と、お持ち帰りいただきます。

「お菓子やケーキをもらうより、一品おかずをもらうほうがうれしい」という人、「今夜の晩酌用のおかずができた」と喜ぶ人もいます。

80歳代の男性。パートナーとの2人暮らしなので、わが家のおかずをときどき、おすそ分け。

「薄味ですね。でも、ダシがきいていて、美味しいです。奥さまは東北出身だから、京都出身の宮川先生が関西風を仕込んだんですね」との感想です。

「どちらの出身なんですか？」とお聞きしました。すると、次のように。

「神奈川県生まれですが、栃木県で育って、終戦後、仙台へ。幼少のころ、煙の出る汽車に乗ったなあ。栃木から仙台まで、何時間かかったかは覚えていませんが。仙台駅から、母の実家のあるところまで、人力車に乗ったものです。もうこういう話を分かる人が、いなくなってきましたね」

少し寂しげでした。「自叙伝でもお書きになって、後世に残されるといいのでは？」とお勧めしました。すると、「イヤイヤイヤ…」と、店を後にされました。

この町で暮らし続けて

先日のこと。

私自身が体調を崩し、予告なしに、「本

店頭から 「こんにちは」

第130回

病を得て地域の人々から心配された日々
町で必要とされていることを実感
1人暮らしの方や、高齢のご夫婦の2人暮らしが増えてきました。
いつもお話をしているので、どのような家族構成かも分かっています。



日休業します」と貼り紙をして、何日か臨時休業をしました。

尿路感染症で、排尿痛、切迫尿意、残尿感、発熱といった案配で、とても起きていられる状態ではなかったのです。

その間に、心配したお客さまが町内会長さんに、「何かあったら大変だから」と相談に行かれた様子。

すると、すぐに町内会長さんが心配し、訪問してくれました。事情を説明したら、安心された様子。

ようやく体調が回復、数日後に店を開けると、お客さまが、こういいました。

「何度も来たけれど、休みだったから、また来てみました。先生、お大事に」

手前みそではなく、そう話しかけてくれる、お客さまの多さに、「この地で宮川薬局を必要としてくれている人が大勢おられる」と実感しました。

文章を書く気力も出てきたので、町内会長さんに、簡単ですが、お礼のハガキを書きました。

「町内の住民の異変を知り、わざわざ尋ねてくれるという町内会思いの会長さん、これからもこの町のことをよろしく願いますね」と。

宮川薬局(宮城県仙台市)代表
薬学博士・薬剤師

みやがわとし じ
宮川季士先生

プロフィール

1976(昭和51)年、東北薬科大学(現・東北医科薬科大学)卒業。'78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87(同62)年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。「続くコロナ禍。侮らないことです」

